

あいさつ

稲化会会長 関根吉郎

ジェネレーションという言葉は昔は30年を意味していた。いわゆる“世代”である。この世代の概念は年とともに短くなってきて、最近では3,4年で1世代でしょうという人もいる。世の中の変化の激しさを物語る。私の小学生のころは、大人になったら陸軍大將になるから、電車の運転手になりたいまで、さまざまな希望があったが、希望はいかにも子供らしく明かかった。現代にはもう夢が無くなったと指摘する声も聞かれる。3年もたつと社会が変わってしまうようでは、ゆっくり夢をみる暇もないのだろう。夢のない世界が、“教育の荒廃”を招いたのである。“臨時教育審議会”なるものの無能ぶりは、夢のない世界にいて無理やり夢をデッチ上げようとすゝるあせりの現れである。

江戸時代の日本の教育は全人口の殆どが受けたにすぎない。シナに生れた儒教であって、その中心は忠の孝という精神的なものであった。忠も藩の殿様に対する忠義であり、孝は自分の父親に対するものである。人間に対する考え方はまだ芽生えていない。江戸時代の鎖国が外圧によって解かれたとき、更めて欧米諸国の強大さに圧倒された。“脱亜入欧”という政策をかかげ200年以上に涉って手本

とした文化を蹴り180°の転換を試みる。強大さを手本にした大日本帝国は、確かに強大になった。然し精神を忘れた日本人は昔の日本人ではなくなった。ここにきてやっと少々おかしくはないかと気が付き始めた。社会ばかりではない人間の身体でも少々おかしいと気が付いたときはもう手遅れなのである。

大体手本とか目標があつての日本の教育であつた。日本は哲学の生れない国なのである。地球は狭くなり世界の中の日本だと力んでみても力むだけでは埒が開かない。昔の日本なら白人の女性に惚れられただけでも国際性を主張しえたかもしれない。これからは違う。日本は先頭を走るグループに追いついたのである。手本はもうないのである。だから日本はどういう国になるべきか、この方向性を先ずきめるべきではないのか。

日本人は白人ではないから、いくら真似てみても白人社会に完全に入ることはできない。それにも拘らずアジアの国々は日本はアジアではないと言っている。この世界からの孤立が一番恐ろしい現実だと私は考える。願くはアジアの人々から尊敬される人間に成長してほしい。

オリエンテーション

今年の新生歓迎オリエンテーションは、初めての試みとして6月に追分セミナーハウスで行われました。

辺りは別荘ばかりが立ち並ぶ、緑に囲まれた薄暗い道を進んで行くと、我々が目指す追分セミナーハウスは突然現れた。その広さといったら、私の想像を遙に越えるものであつ

た。到着後、折からの小雨の中、私はソフトボールをやることになった。これは泥だらけになるなど寛悟していたわけだが、以外や運動場には一面芝が広がっており、その施設の良さには再度感心させられた。懇親会は夕食後に行なわれた。私は夜の更けるまで酒を飲みながら先生方と話をしていたが、それだけでは飽き足らず、残った酒やつまみをかき集めて部屋に持ち込み、先輩方と共に？時までずっと騒いでいて、最高に楽しいひと時を過

ごすことができました。翌日は朝からテニスに汗を流し、帰りは帰りで車中でトランプに興じていた私は、家に着いた時には、「疲れた」の一言であった。

同じクラスには化学科の人が少なく、専門の授業も週一回だけで知っている人が少な

った私にとって、この機会に多くの人々と友達になれ、さらに、大学院の先輩方から化学科とはどういうところなのかを教えていただくこともでき、とても有意義なオリエンテーションであったと思う。（峰尾 泰）

研究室紹介

◇ 井口 研

当研究室では、物性および分子軌道法の研究を行なっています。では、メンバー紹介。

あの年齢（27才）で、何と果敢にも自動車教習所に通い出し、「何年かかることやら」という外野陣のもっともな予想をあっさり裏切り、カール・ルイスも何のその、あれよあれよという間に2ヶ月余りで見事！免許を取得、今や会う人ごとにVサインを提示し、「やったね！V！V！」と仔豚のように叫びつつ、初心者マークの青葉ステッカーを売りつけようとする、子供のように純粋な心の持主K・K氏。履歴書用に3分間写真を撮り、寸法を合わせるためにハサミで写真の周囲を切っていたら顔の一部も切らざるを得なくなってしまい、「うーむ、もっと距離を離して撮ればよかった！」と自分の顔の大きさに改めてがく然としたという実績が高く買われ、大顔連の早稲田支部長に推薦された、後輩思いの心優しき先輩T・Y氏。小さい頃から酒癖が悪く、各種コンパから完全シャット・アウトされてしまい、今や大抵の飲み屋の入口にはこの人の人相書きがしっかり貼られているという、銘打っての酒乱だが、シラフの時は純朴で親しみやすい人柄が売り物のS・M氏。元早稲田オーケストラのコンサートマスターという偉大にして光輝ある過去を持ちつつも、研究室配属後は苛酷なゼミの嵐と腰痛に耐えかねてついにノイローゼとなり、整骨院と研究室とを往復する、還暦の老人のような生活を送ることを余儀なくされているT・M氏。これに井口先生、K・S氏、K・N氏、H・Y氏および筆者を加えた計9人が全メンバーです。よろしく！

（筆者・麻衣恵流）

◇ 伊藤（紘一）研

OB、OGの皆様、お元気ででしょうか。今年も研究室一同一丸となって、昼夜わかたず研究に励んでおります。D2が1名、M2が2名、M1が3名、B4が2名、計8名と例年並の人数になり、去年の12人の時に比べて部屋が広くなったような気がします。

現在の研究内容ですが、「ピピリジンの金」さんは、従来の試料に加え、チオウリジン、ウリジンなどの硫黄を含む核酸構成要素を銀電極系、銀コロイド系で調べています。新婚ホヤホヤですが、なかなかつけないスキを見せません。でも、ときどきさりげなく愛妻弁当を食べています。小山・塚田師弟コンビは銀蒸着膜へのオレフィン類の吸着状態を調べており、並行して金属クラスターの研究も行う予定です。芹田・玉置師弟（姉妹？）コンビは含硫黄環状化合物のラジカルにとりくんでおり、シイタケ臭をまきちらしています。竹中はMn TPPの異常酸化状態及びNO、O₂ アダクトの構造を調べています。石川はナトリウム蒸着膜に試料を吸着させ、ラジカルのSERSをとろうとしています。辻野は銀コロイド系で補酵素NADのSERSを測定しています。

最後に、我がボスの伊藤先生は、ぼくらといっしょになって実験器具・装置をつくらたり（この時あの鼻唄がでます）、振動計算をしたりして、相変わらずの健在ぶりをみせています。卒業したみなさんも、たまには遊びにきてください。（A・T）

◇ 伊藤（礼吉）研

量子研でやっている事を一言で表せば、“多電子系のSchrodinger方程式を解くこと”であり、1)取扱う系、2)用いる近似の程度、3)得べき化学的知見、の3つが問題となってきます。当研究室に配属となった卒

論生は、まず2)及びそれから派生する知識(計算機やプログラム)を、ゼミを通じて身につけます。その後、卒論となる訳ですが(今年は手法としては非経験的方法によるMC-SCFが主流となりそうです)、研究室内での人間的な交流を通じて色々なものが身につきます。(音楽(クラシックからポピュラーまで)、ワイン、血液型、オカルト、登山、オーディオ、マイコン、自動車等に関する知識、及び脂肪。)

さて、何時も若々しく時代感覚豊かな先生の下、本年度のメンバーをみてみますと、暗いけれども力のあり余る森氏(研究生)、力は一並みでも常人の5倍は喋る笹金氏(D4)、口数は少なくとも毒舌には定評のある竹村氏(M2)、B型の人間にしては変わった所が何一つ無い所が変っている小松氏。加えて卒論生に16ビート人間の亀山と16ビート人間のパークジョニスト2名、竹島と竹鼻。最後に斉藤、矢野両氏をはじめとしたOBからなる社会人部隊も、当研究室と大きな関わりを持ちながらキャンパスの内外で精力的に研究を行っております。

(51号館12階11号室へどうぞ)

◇ 関根 研

悲しみの涙が熱く頬を濡らす時、人はそれを“愛”と呼ぶのでしょうか。

私が関根研に配属されて以来、既に2年以上の年月が経ちました。自由の嵐が吹き荒れている我が研究室ではありますが、悲しみや苦しみは人の世の常。時には暖かい先輩たちのおかげで、酒や焼酎の一気を楽しんだものでした。二度と帰らぬ酒とバラの日々(バラとは何?)……懐しき恐怖の夜。

恐怖の夜と言え、1年半程前のある大雪の夜のこと。私はうまくゆかない卒論に頭を悩ませておりました。その時、私の良き先輩であり、恩人でもあるO氏が私の肩に手をかけ、微笑を浮かべ、こう言うのでありました。「今夜は踊るしかない」

流石に、この寒空に裸で踊ることはないでしょうが、私はこの言葉に一種の震撼を覚えました。私は念のために同輩の高島氏を誘い、雪の降る道すがら、一軒目の居酒屋に入りま

した。ここで私たちは、エタノールという液体に誘引されて、あのいつもの陶酔の世界へと落ちてゆくのでした。そして、一軒また一軒とはしごを続け、気がついた時には、私たちは中野区中を徘徊していたのです。いつの間にか雪は止んでいましたが、星も凍りつくほどの寒さの中、私たちはO氏の指図に従い、あてもなく次の店を探し続けました。でも深夜の3時頃、新宿でもないのに店が開いているはずありません。3時間に及ぶ死の彷徨の末、私たちがひどい風邪をひいたことはここに記述するべくもないでしょう。

その他、ここに筆することのできない逸話は数知れず、その一つ一つを思い出すたびに感傷的になってしまいます。

いくらノスタルジックな気分になっても、我が研究室は今年でその波乱の歴史を閉じます。でも、早稲田の化学科に“関根研”があったという事実は、深く人々の心に残ると私は信じております。

◇ 高橋 研

本年度の高橋研のスタッフは、御本尊であらせられる高橋先生、M2が2名、M1が3名、B4が3名という構成です。4年生にはユニークなスペクトルを測定する井口嬢、カラムを口説き落とす大関、途中参加の依田がいます。前号の怪人21面相は逃亡し、あじとで秘密兵器をこしらえているとか。

高橋先生は、時間分解振動分光法の国際会議の招待講演で、6月にドイツに行かれ、日米科学協力セミナーの招待講演で、11月にハワイに行かれました。

現在の研究テーマは、光照射により可逆的に色変化する現象(フォトクロミズム)を示す物質に関し、光活性種の構造及び構造変換のメカニズムを振動スペクトルで明らかにすることです。短寿命種の測定には時間分解ラマン分光法を用い、蛍光物質の測定にはコヒーレント反ストークスラマン分光法を用いています。今秋エキシマレーザーが導入されたことにより、今後研究の幅を広げてゆくことができると思います。光照射による物質の構造変化は、バイオチップを初めとして、最近とみに関心を集めつつあり、今後大きな発展が期待される領域です。

高橋研では、教授と学生間の風通しがよく、研究に関してのみならず、諸方面のことを話し合いながら研究生生活を送っています。何かありましたら、気楽に研究室にいらしてください。

(M2 鈴木)

◇ 高宮 研

今年度の高宮研は修士4名、卒研究生3名の合計7人で大変にぎわっています。高宮研の良さは何と言っても各人の人間性のおもしろさでしょう。M2のN氏はお酒が大好きです。研究室で実験をしている時は、とても厳しい顔つきをしています。お酒を飲みに行くとニコチャンになってしまいます。先日、某商社に就職も決まり、最近顔がほころびっ放しです。でも将棋ができません。M1のO氏はとってもまじめな人です。でも時々プレイボーイも読んでいます。同じくM1のW氏はとっても不思議な人です。彼は変わった髪型が大好きです。でもHMPAは大嫌いです。

M1のK氏は大変です。彼の研究テーマは、「不均一系触媒を用いた寅ちゃんの左四間飛車破り」です。あまり変わったテーマなので実験がなかなかうまくいきません。でも、参考文献を沢山持っているのが頼みの綱です。B4のY君はとっても物静かな好青年です。でもあまり笑いません。W君はキリストです。

このように、高宮研にはいろんな人たちが住んでいます。高宮研では今、触媒反応をテーマにし、気相反応と液相反応を手がけ、日夜研究に励んでいます。高宮研は遊びも研究も両方好きな人たちの集まりです。明るく楽しい高宮研を、どうかよろしく願います。

N・K

◇ 多田 研

OB、OGの皆様、如何お過ごしでしょうか。私たち多田研一同は、近年ドクター不在という冬の時代に屈することなく温厚で気さくな多田研のボスこと多田愈教授の指導のもと日夜実験に勤んでおります。

さて当研究室では、主に3つの系が研究されています。ピラジンの系では現在はピラジン誘導体を用いて種々の含窒素複素環化合物の合成及びその反応性の検討をしています。

補酵素B₁₂のモデル化合物であるコバロキシムを用いて、B₁₂関与の反応の反応機構の検討及びその合成反応への応用を目的としたコバロキシムの系。シクロデキストリンの系は、基質物質をシクロデキストリンに取り込ませ、ここにラジカルを発生させて基質物質の転位反応を起こさせようというものです。

これら3つの系を、橋本、平塚(M2)、十時、中村(M1)、伊藤(研究生)、大島、中西、松本(B4)の計8名が担当し、日々悪戦苦闘しているわけです。

三研合同(新田研、応化の佐藤研)の新歓コンパに始まり、今年は、夏のゼミとして九十九里浜へ海水浴にも行きました。これに味をしめた我々は、三浦半島へも行きました。暮れには、忘年会を兼ねた三研合同での一泊二日のゼミ旅行を行います。個々の個性のぶつかり合いと調和のあるアットホームな楽しい研究室。これ私の実感です……………。

(文責 中村)

◇ 新田 研

当研究室は、現在D3・1名、M2・1名、M1・4名、B4・2名の学生8名と先生を合わせて総勢9名で研究活動を行なっています。新田研の研究内容はだまかに分けて2つの系になっています。1つは非ベンゼン系芳香族化合物の系で、ヘテロ原子を含む新しい芳香族化合物を合成し、その物性や反応性を追求していく系です。D3の小林さんをはじめ多数この系に属しています。もう1つの系は歪みをもった化合物の系で、ピシクロ〔2.2.1〕、ピシクロ〔2.2.2〕の骨格をもつ化合物に対する1.3.双極付加反応を試み、反応の選択性について調べています。

研究室の活動は朝10時頃から始まり、終わるのはだいたい7時以降になっているようです。年間の行事としては、3月新歓コンパ、5月ゼミハイキング、野球大会、7月末にゼミ合宿、10月野球大会、12月ゼミ旅行、年末に忘年会といった具合になっています。また学会にも積極的に参加発表をしており、春秋の年会、非ベンゼン系芳香族化合物討論会などをはじめ、昨年末には環太平洋国際化学会議にも出席し、先生を含め6名が観光も兼ねてハワイへ行ってきました。このように年

間を通じて研究室の全員が充実した生活をして
います。また先生も学生の実験に対してい
ろいろとアドバイスや指導をして下さいます
し、また御自分も論文書き等に忙しい毎日
を送っていらっしゃるようです。

(M1 N・K)

◇ 松本研

「化学科松本研のすべて」

灰色の一昔前の近代建築の中にある南向きの
白い建物。その5階のモノトーンの研究室
群に化学科はあり、その中で唯一のフェミニ
ンな研究室が松本研である。ここはグレッタ・
ガルボの如き和子先生を慕い、三々五々学部
生が集う化学科のパラダイスと呼ばれている
ラボラトリーである。

ただ、こんな松本研にも唯一の欠点がある。
それは「母1人、子1人(!?)の母子家庭」で
あることなのだ。ここには2人の息子がいた

が、1人は「母を訪ねて3千里」のマルコと
なり、もう1人は、化学科を捨て、やくざ稼
業を夢見るピーターパン・シンドローム症候
群となっているからである。

これでは、母親には哀しい限りである。こ
の問題の解決策の鍵は、現3年生がにぎって
いるはずである。

松本研の白金錯体の研究は、他にはほとん
ど例をみず(MITのレパード教授ぐらい)、
白血病の新薬にもなり、21世紀のエネルギ
ー源燃料電池の触媒にもなり得るプラチナン
・ブルーは、非常に研究していく上で魅力ある
物質である。

故に、来年は是非4人は、我が母を助ける
意味でも配属されることをつとに希望する。

最後に松本研のキャッチフレーズを

『リガンドを1つ変えりゃ学会論文。

ノーベル賞も夢じゃねえ』

(文責 高橋建志)

自由投稿

今回より自由投稿の欄を設けました。研究
室での生活はいかなるものか、4年生の人に
一筆書いていただきました。

「西部沿線異常なし」

西武沿線N駅前に「コロラド」という喫茶
店がある。このウェートレスは、美人だ。
女優・薬師丸ひろ子に色気を加えた女性であ
る。

K君は毎朝8時半、ネクタイを締めて「コ
ロラド」に行く。彼女を一目見ることからK
君の一日は始まる。

「ありがとうございました。モーニングセ
ット380円です。」

という言葉に送られて午前9時半には研究室
に着く。ネクタイ姿から白衣に着替える。実
験は午後1時まで続く。

昼食はいつものように生協でとる。K君の
メニューは、ライス、タマゴ、冷やっこ、さん
まという和食がほとんどだ。昼食の時間がい
ちばん楽しい。他の研究室の女の子ともバカ
話をする。

「お姉さん、そんなに食べると太るよ。今
でさえ、Hさん(M2)の3倍のおしりと言
われてんだから」

夕方7時まで休憩をはさみながら実験は続
き、再びネクタイを締め家庭教師に行く。教
え子は先生であるK君よりでかい。それでも
K君は教え子に暴力を振るう。ひどい奴だ。

午後11時にやっとアパートに戻る。朝刊と
夕刊に一度に目を通す。1時間はかける。化
学だけでは一角の人ではないはずだ。

深夜、TVが終わる頃、K君は床に就く。
明日「コロラド」に行こうと考えながら。

(文責 T)

学部生の声

● 1年生

私の出身校は早稲田大学本庄高等学院であ
る。そのため早稲田大学に入学できたという
感激はあまりなかった。三年間も早稲田、早
稲田とやってきたのだから当然と言えば当然
のことであろう。さて、学院と言うと「遊ん
で大学へ行こう!」と言うぐらいのところ

あるから、時間的余裕が大変あったのである。私はこの時間の大半を化学につぎこんだのである。それは、多少興味があったこともあるが、化学の教師で関根研究室のDr.であられる上野先生に大きな影響を受けたためである。この先生が化学科出身であられたため、私は進路希望を化学科にしたのである。

2月29日、この日に進路が決定したのである。私の進路報告書には「理工学部化学科」と書かれてあった。この時の私の気持は複雑であった。報告書を見た瞬間は本当に嬉しかったが、少し時間がたつと、私のように遊んできた者が入ってしまったいいのだろうかという気持ちになってきた。しかし、上野先生から、なんとかなるものだと聞かされて、多少安心したものであった。

入学式、始業式、ガイダンス等が過ぎて授業が始まった。授業内容は考えていたよりもhardであった。クラスの友達も思っていたよりユニークで個性的な人が多かった。さすが早稲田という感を得た。

ここまで、だらだらと書いてきてしまったが、最後に私達の恩師である上野先生の訓で締めたいと思う。

— 化学は愛だ!! —

(Y. U. Corporation, M. Y)

● 2 年生

喜劇 「第12期生」 全4幕

※ あらすじ

全登場人物の6割ほどの28組出身者(多数派)と、それに属さない人物たちが、有機B、分析実験などで数々のギャグを演じているが……(現在まだ2幕上演中であり、結末・主題を論じることは作者と雖も不可能である。)

※ 主な登場人物

- 「ピンブルパンブルパムポップン」と叫び、福山弁とベルシャ言葉を使いこなす男。
- 北海道出身、中野区在任、なぜか天才。
- 作者の隣で実験をしているが、いつも作者の約半分の時間で終えるよくわからん男。
- 西部コガネーイ族の酋長。
- 存在を抹消されかけた男。(有機Bにて)
- 人になんのかんの言っではいるが実は弟にかこつけて自分もベルシャを見ていた男。
- 40歳、化学科T. A.、2児の父

- 午前中は生存が確認されておらず、食堂ではカツしか食わない、正体不明の男。
 - 「だいにビュレットがない事件」の彦根出身の男(関西弁で「台に」と言ったら…)
 - 1幕では放射線を、2幕では硫酸ガスを充填させた「実験室のヒンシュク男」。
 - 雀狂。
 - P. B. (プレイボーイ)を目指す徳島池田出身の○ナ○男。
 - 主役でありながら2幕後半まで出演されなため殆ど皆に忘れられている高橋先生。
- ※以上の紹介の通り、この劇は女性の登場人物がいない甚だ殺風景な喜劇でもある。
- (文責 ジャ)

● 3 年生

御無沙汰しております。私達学部3年生はひとこと言ってしまうと「変なヤツ!」の集まりなのです。

総勢約30名の学年ですが、授業にでているのは、おそらく15~20人くらい。ちゃんと先生の講義を聞いているようですが、いつも一番前の席に陣取っている4、5人は、化学科のブレインと呼ばれ、授業に対するその気迫には目を見張るものがあります。彼らは先生に、容赦なく鋭い質問をします。先生は、その本質をついた質問に、懇切丁寧な説明をしてくださるのですが、私にはその質問の内容すら理解することができません。でも、私のような学生もたくさんいますし、一応単位も取っているのだからと、自分を慰めています。さて、授業にでていない人達はいったい何をしているのでしょうか。下宿で寝ている人、雀荘に入りびたっている人、自動車教習所に通っている人と、その内容は様々ですが、ひどい人になると、週一度の実験にしかできません。最近、そんな彼のニックネームが変わったという噂を聞きました。「シーラ」という名前です。「うん、なかなかかわいくいい名前じゃん」と、私は思ったのですが、名付け親が言うには、「週に一度しか姿を現さない彼を、生きた化石“シーラカンス”に見たててみた」とのこと。「なるほど!」とは思ったのですが、「どうせなら“カンス”の方がいいのになあ」と、私は思います。

以上、現在の3年生の雰囲気をお伝えした

つもりです…。

(原稿を押しつけられた3年のN村)

● 4年生

学部4年生の各研究室への配属を決めるには、学生の数が多くても少なくても困る様です。私達10期生は、定員の半分程しかおらず、やはり相当長引き最終的に決まったのは二月の始めでした。多くの研究室は三月の頭から動きだし、やっと私達も厄介な客から研究室の一員らしくなっています。私達4年生はその数の少なさのために比較的まとまりがあったのですが、みなそれぞれに忙しいらしくなかなか全員の顔がそろう事はありません。しかし、65号館の廊下に来ると、実験の暇を見つけては研究室を抜け出して私達4年生の雑談する姿が毎日見られます。安閑とした3年間に比べて飛躍的に伸びた拘束時間と、実験に不慣れな私達の引き起こす様々な事件に

よって、各自の個性が全面的に現われていきます。相手を見つけては愚痴をこぼしやすくなる人、実験装置に思わず話しかけてしまう人、いくら失敗しても笑って誤魔化す強者、等々。修士博士の皆さんがこんな私達を見逃すわけがなく、私達は格好のおもちゃになっているわけです。今年は大大学院進学者も少なく、各研究室とも来年のやりくりが大変でしょう。進学にしろ就職にしろ、今年一年かけてじっくり(?)研究に取り組みそれぞれが何かを見つけられれば良いのですが、その探し方、道具の使い方、まして探し物すらがはっきりと見えないのが現状でしょう。しかし、みんなそれにめげず奮闘している毎日なのです。

— また見つかった、一何が、

— 永遠が、海と溶け合う太陽が —

J. N. A. Rimbaud

(M. T.)

卒業生短信

菊池満：6月に結婚しました。小林秀樹：83年に結婚し、84年に長女が生まれました。 瀧野昌：今年の4月から西ベルリンの自由大学の数学科に転動しました。昨年是一年ハノーバー大学で助手をしていたのですが、ベルリンは長く住んでいたこともあり、古巣に帰ってきた気分です。程田充彦：去年結婚して、今、子供づくりにはげんで元気なり!!横田昌明：60年5月24日をもって、医籍に登録されました。早稲田をやめ、野に下って8年、やっと早稲田出の医者になりました。鈴木篤：元気でやっております。池山永津子：9ヶ月になる長男太一と毎日格闘し、学問とは遠い生活をしております。角谷嘉和：昨年8月2日から8月6日まで台湾旅行に行きました。今度はシルクロードを旅したい。中山匡：1月29日に女の子が生まれました。絃子といます。大学院を終わって、まだ3年足らず。だんだん時の流れを感じるようになってきました。渡辺美鈴：独立したプログラマーです。石井聡：新耐熱性樹脂の開発で学生時代全く縁のなかった化学工学もやらねばならず、楽しい毎日です。激動の20代も後半、益々人生

というものがわからなくなり、体力の衰えもめっきり。嫁さんさがしはじっくりと…。庄司宏：現在、C1プロジェクトH.Cグループに派遣され、筑波研究学園都市内の化学技術研究所にきています。荒川靖：相変わらず元気で毎日を過ごしています。今井政光：最近、ラグビーをやっています。26才という老体にムチ打って、プレーしています。日立には、化学科から後輩が多く入社して来ていますが、喜んでいいのやら、何とも複雑な気持ちです。もっと、日立の顔を見てから、会社選びをすると良いと思います。並木政道：2月21日、高校のスキー教室のため菅平(表ダボス)に行ってきました。4月から、新居に移りました。岡田修司：就職してからはや1年半になりますが、相変わらず学生時代と同じような生活をしています。久留田哲夫：横浜って誘惑の多いところですねエ。埼玉から出てきた進歩人より。津久井弘子：昨年暮れ、結婚して、今、家事と仕事とめまぐるしい日々を送っています。松原信也：LSIに関する仕事をしています。安井孝之：経営・経済雑誌の記者という畑違いの仕事をしています。とにかく毎日毎日エキサイティングです。植竹隆：4月に結婚しました。佐々木一郎：研修期間も終わり、4月30日より、化学品事業部化

成品研究所に配属となりました。重野信一：1月中旬、支局に新人記者が来て、やっと後輩ができました。1年半にわたるサツ回りから司法担当に変わり、わけのわからない法律用語と悪戦苦闘しています。「水俣病第3次行政訴訟」「琴北火電行政訴訟」などを中心に専門とまったく関係のないことをやっています。芳野齊：平凡な社会人です。松尾徹：

昨年結婚しました。相間靖三：現在、歯科材料の開発研究をおこなっております。なかでも、私は、臼歯部修復材料を担当しておりますが、難しいですね。物をつくるということは…実感している毎日です。増淵徹夫：旭化成で合成ゴムの開発研究を行っております。元気で過ごしております。二井野雅彦：社会は厳しい。

会 計 報 告

— 1985. 12. 26 現在 —

	59年繰越金	599,429
■ 収入の部		
会 費	423,000	
利 息	4,820	
計	427,820	
■ 支出の部		
稲化会報（第3号）	32,000	
名 簿（第3版）	75,000	
消耗品代	17,020	
雑 費	48,600	
計	172,620	
■ 残 金	854,629	
	(単位・円)	

お 願 い

- OBの方々の消息等のご連絡をお願いします。
〒160 新宿区大久保 3-4-1
早大理工学部 化学科事務室気付
- 稲化会費を払いましょう。
正会員 1,500円、学生会員 750円



稲 化 会 役 員

会 長	関根吉郎	
副会長	高宮信夫	
監 事	井口 馨	
評議員	井口 馨	伊藤 紘一
	伊藤礼吉	関根吉郎
	高橋博彰	高宮信夫
	多田 愈	新田 信
	松本和子	
	長瀬 裕	矢野圭一
	中山 匡	小又昭彦
	井上国見	宮田信夫
	百瀬 浩	小林慶裕
常任委員	会計 新田 信	
	庶務 伊藤 紘一	
学生幹事	M2 橋本 顕生	
	武田幸雄	宮野浩行
	M1 伊藤信一	伊藤貴和
	関 敦司	
	B4 大島 薫	塚田光男
	B3 遠藤 茂	境野佳樹
		横田知宏
	B2 小西隆太郎	湯沢哲郎
	B1 朝倉徹也	紺谷圈二
		古瀬礼子

